



一略一

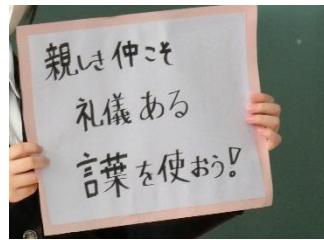
人権について考える

12月2日(火)の朝の会で「種をまこう」の冊子から「悪口」(第43回全国中学生人権作文コンテスト 内閣総理大臣賞)の作文を担任が2年生に読み聞かせました。「悪口」という作品は、『「ばれなければいい」という気持ちで、本人のいないところで、悪口を言って数人で盛り上がっていたところ、聞いていた子が止めてくれた』という経験を述べた作文です。

- ・ゆがんだ仲間意識とは?
- ・空気を読めない子と思われたくないという気持ちが、どう行動に出ているのか?
- ・「悪口」は、ばれなければいいのか?

さまざまな面から、自分を振り返ることができる作品でした。

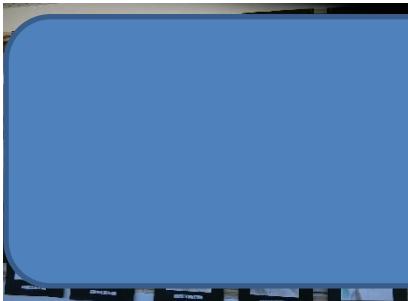
また、C組では級長から「親しき仲こそ礼儀ある言葉を使おう!」という12月のめあてが提示されました。自分も仲間も大切にする意識が、学級・学年全体へと広まることで、もっと過ごしやすい学校になりますね。



人権集会を終えて（振り返りより）

- ・「 $1+1=2$ 」これが答えたと思っていたけど、「 $1+1=1$ 」や「 $1+1=101$ 」という考え方もしなかった答えが答えたことを初めて知ることができました。「2」に多くの手が上がっていたけど、全部に上げている人もいて、いろいろな考えがあることを知りました。間違えることは、悪いことじゃないことを知り、自信がもてました。(1年生)
- ・私は失敗することが悪いことだと思っていたので、失敗を恐れて発言などできなかったけど、今回の人権集会を通して失敗は悪いことじゃないことだと知ったので、これからは恐れずにたくさん自分の考えを伝えていきたいです。あまり意識していない言葉でも人権を否定するような用語になってしまふこともわかったので、1つ1つの発言に責任をもてるようしたいです。(2年生)
- ・人権集会で印象に残ったことは、人が生まれてくることは奇跡だということ、自分の命と同じくらい友達の命も大切にするということです。自分が生まれてくるということは、他のものが犠牲になったということに初めて気づきました。人の命以上に大切なものはないと改めて気づき、自分、人の命を大切にしてこれから過ごしていきたいと思いました。(3年生)

校内に美術、作業学習、技術・家庭科の作品が展示されています



一略一

どの作品からも想いを感じます